

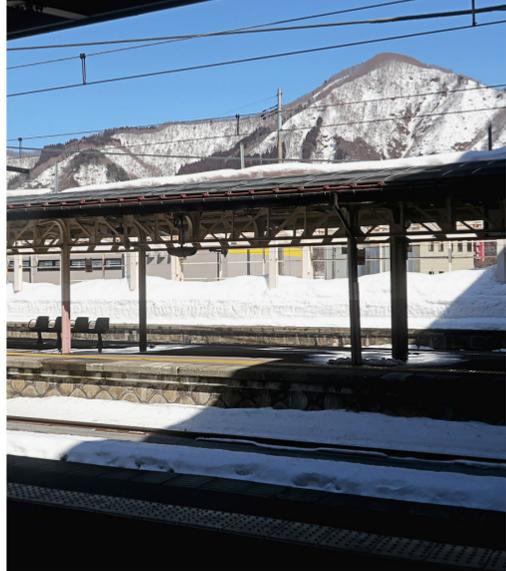
# 眞平新報

2026年(令和8年) February

発行者 眞平  
http://s-shimpei.com/  
f X



## 雪景色と阿鼻叫喚



三連休は暖かいとの予報だったがしっかり雪景色(越後湯沢駅で乗り換え北越急行線ホームから)

22〜23日の三連休後半を使って新潟は柏崎の温泉宿に家族で骨休みに訪れた。三連休ともあって新潟方面もかなりの人出があり、静謐な雪景色とは裏腹に、途中の越後湯沢の駅は阿鼻叫喚の地獄絵図であった。

### 交差する苦味と懐味

妻の職場の優待で、柏崎の温泉宿に泊まると言うので行ってきた。連休は暖かいとの予報だったが、雪は降り出した。私共は軽装で出掛けたのだが、冬の雪国の過酷さを完全に身感して

しまったのだが、なんとかの温泉宿に泊まると言うので行ってきた。連休は暖かいとの予報だったが、雪は降り出した。私共は軽装で出掛けたのだが、冬の雪国の過酷さを完全に身感して



この雪国で足元スキーの私(北越急行線車窓から臨む雪国)

### 考 専制の予感 — 考え過ぎを願う

数々の震災による諦観の深さや教育基本法の改定による規範と道徳の強化、コロナ禍による強制的服従国民たちが完成。今回の選挙では、そんな国民たちの政治的目覚めにより、現政権政党大

多数の独裁国家が樹立しようとしており、その際には即座に専制国家への転落が予想される。よく考え過ぎと言われ

るが、今回ばかりは考え過ぎであって欲しい。



隅々までゆき届いた福の料理(派手な色味が深)

隅々までゆき届いた福の料理(派手な色味が深)

問題は帰路。新幹線の接続が思うよういかず、越後湯沢駅で二時間の待ち時間が発生した。その際に子どもと私の意見が真っ向から対立してかなり採め、ゆ



氷点下2℃の雪の中投票所へ向かう様子(気温も現実に寒い)

### 不登校の過ごし方

不登校の子は一日取り組めるものと思っ、中ユチューブを見ているので、できるだけ能動的に

取り組めるものと思っ、中ユチューブを見ているので、できるだけ能動的に

しかし、ユチューブの魔力は強く、なかなかスイッチを手を伸ばすようにならな

なっていたのだが、最近ようやく子どもがスイッチを手を伸ばすようにならな

った。いや、スイッチ専用パソコン(今のコントローラは機能が複雑過ぎる)



スイッチ専用パソコン(今のコントローラは機能が複雑過ぎる)

### 初雪直撃の焚火会 子は歓喜 大人は弱気



マンマロ焼(子どもたち(現代の子でも寒さは強い))

今季初の雪予報が出た7日、抽選で当選したデイキャンプ場で恒例の焚火会を開いたが、当日朝、参加予定の子ども同士が喧嘩のため一方から欠席の連絡があり不穏な幕開けとなった。



焼きや焼(子どもが善(寒くて麦酒が進まない))

に耐え切れなくなった大人の判断で早めの撤収となった。子どもたちの年齢的にも来年はこうなることか。

### 本場の終わりが始まる選挙結果

雪景色の8日、第51回衆議院議員総選挙の投票が行った。結果、あらゆる局面で深刻な問題が山積している我が国が、多くの国民の信任を得て、問題だらけの現政権政党が歴史的勝利を果たした。

うでで考え抜いた、最大にして最期の期待と希望を託した選択だったと思うが、本場の終わりが始まることになる選挙結果は、氷点下2℃より冷たい、震え上がるばかりの現実だ。とにかくみなさん、しぶとく生き残ろう。

### 眞平御免

相変わらず安定的に不登校が続いている子どもですが、稚拙な政治家や倒錯した社会認識を生み出してしまふような教育なら、無理して受けさせる必要もない、と真剣に考えてしまいます。とは言え、今の社会制度の中では、子どもが学校行けなくなることに親の負担も相当です。

我が家でも妻の仕事の異動により、私が4月から介護休業を取得する方向で手続きを進めているのですが、物価高や実質賃金が下がる中、無給になる可能性が高いため、経済的に苦しくなることは確実です。また何かを選べるような状況にありませんが、今後不登校が長く続く場合、フリースクールや通信制教育、はたまた家庭教師なども考慮に入れなくてはなりません。これを避けたとしてもかなり高額です。まあそんなわけなので、この狂った政治や歪な社会の中で、不登校の渦中にある我が子は今後どうなってしまうのかと、一日のうちに何度も考え不安に陥ってしましますが、逆に言えば、そうした状況だからこそ、うちの子どもは必死に抵抗しているのだとも感じます。

2026. 2. 27

ご意見・ご質問・ご要望、寄稿・投稿・広告掲載(無料)などは各種SNSからお問い合わせ下さい。

### 今月の視聴覚 記録と記憶

#### ホットスポット

全10話 2026年 バカリズム 脚本

脚本家の足立紳一が、日常系SFオカルトコメディという新たなジャンルを確立した傑作。微妙な感情や間を重視した演出ながらも、それ見事に演じきる俳優陣の演技力には感服させられる。個人的には主演の市川実日子の円熟してきた魅力に惚れた演技とが印象に残る作品。もう一度見返したい。

#### 布団の中から蜂起せよ

全8話 2021年 アベラヒデノブ 監督

物語の構想や舞台、俳優陣や演出が、ひとつひとつの要素や素材は贅沢過ぎるが、そうした設定が先走り過ぎて、話の流れに強引さを感じてしまう。カット割も早いので、せいかくの人間ドラマなのに、性急な落着きの無さが目立ち、どこか不安げな緊張感を感じてしまう。実は、たいない作品。

#### 医者にオカルトを止められた男

全8話 2025年 303頁

誰もが「オカルト」を一度は信じたことがある筈だ。「オカルト」そのものというよりも、「オカルト」を取り巻く人間や社会現象に対する魅力や愛して止まない著者。著者の実体験としても、心霊か人術かの苦悩にそれがよく表れている。

#### 光るだけしかない機械

2026年 月刊湿地帯 おいし水制作 ver1.1

プレイヤーが光るだけしかない機械になって進んでいくサウンドベルゲーム。光るだけしか進められないにも関わらず、不自由ながらも生まれる奇妙な親近感と関係性。社会が弱体化しているからこそ感じる肉と希望のゲームである。

#### ババヤガの夜

2020年 181頁 王谷 晶 著

英国推理作家協会のダガー賞翻訳部門を受賞したクライムバイオレンス。ダブルヒロインの依子の隠しきれない暴力性と尚子の隠されてきた暴力性が終盤に見事に開花する爽快感だけでも必読。魔女(ババヤガ)側に傾く依子に対し無反応の尚子、という二人の行く末を明確に暗示したラスト描写もけっころさっぱりとしたシスターフッド。メディアミックスにも期待する。

#### エロってなんだろう?

2025年 173頁 山本 直樹 著

「エロ」とはタブーの境界のギリギリを開示する「面白」にあるのではないかと考察するエロ漫画家の著者だが、「エロ」を考えてゆくうちに政治や統治の話にまで踏み込んでゆく。青少年保護育成条例で初めて有書コミック指定を受け、責任転嫁の矢面に立たされた著者だからこそ重みがあるのだが、どこか軽妙だ。

#### 超巨大歩行機ゴリアテ

2026年 椎名 誠 著 206頁

著者の書いてきた20冊に及ぶ「超巨大小説」を総括するようなセルフカバリの冊。これまでの著者の旅の風景を閉じ込めたような描写も多く、SFというよりは紀行文に近い。「アド・バード」「水域」「武装島田倉庫」などの著者のSF初期三部作から読んできた者としては、灰汁の再登場に感慨もひとしおだ。

#### ブラッシュアップライフ

2023年 全10話 バカリズム 脚本

「ホットスポット」から遊んで視聴。内容も同じく日常系SFコメディ。タイムループまたはリープの観点からすると、かなり無理があるので、そのあたりは目を瞑って鑑賞。こちらの作品も豪華な俳優陣だが、特に印象的だったのは、どの世界線においてもカラオケボックスに取り残されている染谷将太の駄目具合。

#### 成瀬は都を駆け抜ける

2026年 宮島 未奈 著 231頁

大人気シリーズ「弾丸結核」全編通して、成瀬に関わる登場人物たちによるモノクロによって綴られるからこそ、成瀬の得意な魅力が効果的に伝わる描写になっている。著者の巧みさを感じ知らされる。思っていた成瀬が丸顔だったことに驚。

#### 爆弾犯の娘

2025年 287頁 梶原 阿貴 著

指名手配犯の父を匿いながら生活していた幼少期と芸能の道から脚本家になるまでの半生を綴った著者の自叙伝。著者を取り巻く出鱈目で愛おしい人々の織り成す重層的な関係性に感じ入る。波乱万丈で過酷な生活を持ち前の淡々としたユーモアで立ち回りながらも、それを決して個人の資質とせず、物語を通して「やさしさの組織」を模索する著者の誠実さに敬服。

#### 言語化するための小説思考

2025年 小川 哲 著 189頁

抽象化と個別化による認識の拡張化といった概念的なところから、具体的に物語の冒頭や会話文の描き分けによる伝わり方の違いの例示など、言語表現のキモやコツを丁寧かつ簡潔にまとめた一冊。ロジカルでリテラカルな姿勢が好ましい。